

土師ダム 概要版 水源地域ビジョン

江の川の水源から“はじまる”水と人の循環



平成18年 2 月

土師ダム水源地域ビジョン策定委員会

1 水源地域ビジョンとは

● 水源地域ビジョン

我が国の国土面積の約2割を占めるダムの集水区域、いわゆる水源地域は、これまで流域の水源として治水、利水、環境面において国土の発展を支えてきました。

今後、21世紀のダム事業・ダム管理においては、水源地域と中・下流受益地の住民及び組織の自主的な参加を通じた「流域共同体意識（パートナーシップ）」の下、従来、ダムに求められていた治水や利水といった機能に加え、水源地域活性化の核として、ダム及びダム周辺の自然及び水源地域の伝統的な文化活動等を利用した水源地域の自立的・持続的な活性化を図るためのハード、ソフト面の総合的な整備が期待されています。

このため、ダムの貯水池のみではなく水源地域全体を視野に入れ、水源地域、中流受益地、下流受益地の流域連携によって、流域圏の共有資産である水源地域の自立的・持続的な活性化や、水源地域が有する公益的機能を確保し、バランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的とした「水源地域ビジョン」を策定することとしました。

● 土師ダム水源地域におけるビジョンの策定背景

昭和49年に広島・島根両県にまたがり中国地方最大の流域を有する江の川上流に建設された土師ダムは、江の川の洪水調節とかんがい用水の補給とともに、太田川への流域変更により、広島市をはじめとする5市5町（平成17年4月1日現在）へ都市用水の供給を行うという全国的にも広域かつ多目的な特徴的機能を有しており、広島県の生活・経済基盤を支える重要な役割を担っています。

また、その都市用水となる水源の涵養や、土師ダムの機能維持の役割を担うのが、土師ダムが位置する安芸高田市や、その上流に位置する北広島町（旧大朝町、旧千代田町）のいわゆる「水源地域※」です。

総面積の約8割を森林が占める本水源地域は、流域住民が生活していく上で必要な水源を涵養する機能だけではなく、土砂流出の抑制や多くの野生生物の生息場など多様な公益的機能を有しています。

しかし、近年の社会をとりまく動向の変化にともない、本水源地域でも活力に低迷が見られる状況にあるとともに、土師ダム周辺においても年間を通じたダム湖の利用方策や増大する維持管理の方策に課題を有する状況にあります。

また、水源地域から都市用水の供給を受ける広島市をはじめとする下流域（受益地）においては、水源地域の役割や機能、さらには恩恵に対する認識は必ずしも高いとは言えない状況にあります。

水源地域の持続的・自立的な発展は、水源涵養（水資源貯留、洪水緩和、水質保全など）、流域の生態系保全、環境保全に配慮した水循環の維持、ダム機能の維持などの面において、水源地域のみならず、その恩恵を享受する下流域にとっても将来にわたり重要なものとなります。

「土師ダム水源地域ビジョン」の策定にあたっては、下流域との相互関係の中で水源地域の自立的・持続的な活性化の方途を明らかにし、水源地域及び下流域（受益地）の自治体や関係行政機関、流域住民や活動団体などの主体的な参加と連携の基礎づくりを行いながら、実効性のある行動計画を策定するものです。（※本ビジョンにおける「水源地域」は、安芸高田市、北広島町（旧大朝町、旧千代田町）の1市1町と定義します。）

● 土師ダム水源地域ビジョン策定の組織及び経緯

策定にあたっては、平成16年11月24日に「土師ダム水源地域ビジョン策定委員会」が設立され、水源地域の自然環境の保全方策や活性化方策などについて3回の委員会（委員17名、後に町村合併により1名減）を開催しました。

また、委員会の下部組織として「土師ダム水源地域ビジョン検討ワークショップ」を設立し、ビジョンの具体的な方策や推進体制について5回のワークショップ（21名のメンバー）を開催しました。



委員会（左）とワークショップ（右）の様子

2 水源地域の現状

● 水源地域の現状と課題

恵まれた自然環境

江の川は広島・島根両県境に位置する阿佐山（1,218m）の東方にその源を発し、中国山地のほぼ中央を貫流し日本海に注ぐ中国地方最大の一級河川です。

その上流に位置する水源地域（安芸高田市、北広島町のうち旧大朝町域及び旧千代田町域）は、冬季には積雪を記録するなど、低温多雨で積雪寒冷な山間特有の気象条件を呈しています。

また、総面積の約8割が森林に占められるとともに、森林の約7割が自然林により構成されているなど恵まれた自然環境を有しており、森林や水域には豊かな生態系が築かれています。



水源地域の緑

歴史・文化の伝承

水源地域一帯は古代文化の栄えた出雲地方に近いことや、戦国時代の知将である毛利元就の一族が繁栄した地として、数多くの史跡・名勝が各地に点在しています。

また、神楽の地として全国的にも有名であるとともに、国指定文化財である「安芸のはやし田」や「壬生の花田植」などが地域の伝統芸能として大切に受け継がれています。

なお、安芸高田市は、平成16年3月1日に高田郡6町（吉田町、八千代町、美土里町、高宮町、甲田町、向原町）の合併により、また、北広島町は、平成17年2月1日に山県郡内の4町（大朝町、千代田町、芸北町、豊平町）の合併により新たな市政、町政として誕生しました。



安芸のはやし田
(出典：安芸高田市HP)

高齢化の進行

本水源地域の人口は、旧千代田町では高速道路の開通や工業団地、県営千代田流通団地などのインフラ整備により微増傾向にありますが、安芸高田市、旧大朝町では減少傾向にあります。

一方、老年人口割合（全人口に対する65歳以上の人口の割合）高齢化率で見ると、平成12年現在、安芸高田市30.8%、旧大朝町31.1%、旧千代田町27.2%と、いずれの地域も県内平均（18.5%）を大きく上回っており、今後、若者の定住化や高齢者に対する福祉・支援の強化が急務であると考えられます。

観光の動向

観光客の入込客数は平成に入って増加傾向でしたが、平成10年頃からは200万人程度（出典：広島県入込観光客の動向，広島県）でほぼ一定して推移しています。また、水源地域を訪れる人のうち約2割程度が八千代湖を訪れるなど、土師ダムが地域の大きな観光資源として定着していることが伺われます。

しかし、多くの観光客が桜や紅葉の行楽シーズンに集中しているとともに、近年の高速交通体系の整備により、通過型の観光が主となっており、今後は冬季も含む通年型・滞在型の観光への誘導が大きな課題となっています。



八千代湖周辺のサクラ（写真左）とカヌー教室による湖面利用（写真右：海洋スポーツ教室）

● 水源地域の現状と課題

建設の経緯

土師ダムは江の川の洪水調節、かんがい用水の補給、広島市周辺地域に対する都市用水の供給並びに発電を目的として昭和49年3月に完成した多目的ダムです。

江の川の本格的な河川改修は昭和20年 9月に発生した枕崎台風による被害を契機に、昭和25年から中小河川改修事業として着手されました。その後、昭和28年からは直轄改修事業（1級河川指定は昭和41年）として引継がれ、昭和41年に策定された「江の川工事実施基本計画」に基づき、下土師地区から三次市までの江の川、三次市周辺の馬洗川及び西城川において主として堤防の新設、拡築、河川掘削等を鋭意実施してきましたが、昭和40年、昭和47年と相次ぐ大規模洪水に見舞われ、沿川各地に大災害を惹起したため、再度、計画の見直しが迫られるものとなりました。

一方、利水の面からは、広島市周辺の経済発展はめざましく、広島市東部及び呉地区に位置する広大な工業用地における工業用水の需要増大とともに、広島市及びその周辺都市圏の急激な人口増加に伴い太田川水系からだけの利水能力では限界が見え、新たな水源の確保が急務となっていました。また、江の川（可愛川）支川簸川沿川の農地 約280ha（当時）は干ばつの常襲地帯であり、その水源確保が課題となっていました。

このような治水・利水両面の要請に応えるため、国土交通省では昭和48年に「江の川工事実施基本計画」の改訂を行い、尾関山基準点における基本高水（10,200m³/s）を、土師ダムを含む江の川のダム群により7,600m³/sに調節する計画とする他、土師ダムの建設により、江の川の洪水調節、農業用水の供給のみならず、水資源の広域かつ多目的な利用を意図して、太田川に流域変更し、広島周辺地域に対する都市用水を確保し、併せて発電を実施するものとししました。

堤高50m、堤頂長300.0m、貯水池（八千代湖）の湛水面積は2.8km²、有効貯水容量は4,110万m³（25mプール約12万杯分の水量）に達します。



土師ダム全景（下流から）

ダムの機能と効果

土師ダムは、江の川の洪水調節、河川環境保全等のための流量確保、流域の農作物の生産に不可欠な農業用水の補給という機能のみならず、水資源の広域かつ多目的な利用を図るため、太田川に流域変更し、広島周辺地域に対する都市用水・工業用水を確保し、併せて発電を行うなど、江の川流域及び太田川流域の社会基盤の形成・発展のための多くの役割を担っています。

なお、太田川より取水される広島市周辺の上水道用水及び工業用水のうち、上水道用水については約22%（200,000m³/day）、工業用水については約26%（100,000m³/day）を、土師ダムからの分水量が占めています。（許可水利権ベースによる割合）

・・・ 土師ダムの機能 ・・・			
洪水調節		農業用水の補給	
ダム地点の計画高水流量 1,900m ³ /s のうち、1,100m ³ /s の洪水調節を行い、800m ³ /s に低減し、下流の水害を防除します。		ダム下流の江の川沿岸や、支川の簸川沿岸の農地に対し、かんがい用水の補給を行います。	
都市用水の供給		発電	
水資源の広域的かつ多目的な利用を意図し、広島市周辺地域や瀬戸内海の島しょ部の5市5町の水道用水の一部として、毎日 200,000m ³ （うち 100,000m ³ /日が広島市）の水を供給します。また、広島市から呉市の間にある工場の工業用水の一部として、毎日 100,000m ³ の水を供給します。		太田川水系に送水する水を利用して、可部発電所において、最大電力 38,000kw、年間発生電力量約 149,000kwh の発電を行います。	
		河川環境の保全	
		渇水など河川の流量が少ない場合には、ダムから貯水池の水を放流して河川に必要な流量を確保し、河川環境の保全を図ります。	

3 ビジョンの基本理念

江の川の水源から“はじまる”水と人の循環

流域の歴史・概要

「中国太郎」の異名を持つ江の川は、中国山地のほぼ中央を貫流して日本海に注ぐ幹川流路延長194.0 km、流域面積3,900km²を有し、その流域は広島県・島根県の2県にまたがる中国地方最大の河川です。その名は日本書紀にも「可愛川」として記されるなどその流域の歴史は古く、かつては山陽と山陰を結ぶ交通路として舟運が栄えた他、現在も当時の文化を垣間見ることができる数多くの伝統芸能や文化財が流域各地で継承されています。

また、流域が有する地形がゆえ、市街部は限られた盆地や平野部に形成されており、流域には比較的恵まれた自然環境が残されています。

水源地域の役割

この江の川の水が生まれる上流域に建設された土師ダムは、江の川の洪水調節とかがい用水の補給とともに、太田川への流域変更により、広島市をはじめとする5市5町に住む約180万人の生活用水^{*}や、工業用水の一部を担うという全国的にも広域かつ多目的な特徴的機能を有しており、その機能を支える「水源地域」は、江の川下流地域はもとより、広島県の生活・経済基盤を支える重要な役割を担っています。（※参考：「広島県」および「広島県企業局」のホームページより）

また、総面積の約8割を森林が占める水源地域は、水源を涵養するという健全な水循環の維持機能をはじめとして、土砂災害防止・土壌保全機能、生物の多様性、地球温暖化の緩和（温室効果ガスの吸収）・気候の安定化など、その公益的機能は、流域はもとより地球規模の環境を維持する上で欠かすことのできない様々な役割をはたしています。

水源地域の課題

しかし、現在、水源地域においては、人口の減少や高齢化に伴い、森林をはじめとする水源環境の保全・回復機能の適切な維持管理への懸念や、地域の発展を担う様々な担い手の不足など、多くの問題を抱える一方で、下流域や受益地への水源地域の役割、重要性に対する認識は、必ずしも十分とはいえない状況にあります。

水源地域活性化に向けた考え方

今後は、水源地域という限られた地域だけではなく、下流域や受益地を含む流域圏という広い視点に立ち、水源地域が流域圏全体の資産であることを流域住民が共有化するとともに、水源地域が自立的、持続的に発展していくことが重要となります。

そのためには、これまでの水源地域としての歴史や役割を十分に踏まえ、江の川、太田川という水で結ばれた軸を中心として上下流の様々な情報を発信し、交流と連携を育むことにより、水源地域の意義や役割を流域圏全体として共有化していくとともに、交流人口の増大や下流域・受益地との連携・協働による取組みの活発化を図り、流域圏として水源地域を様々な面で支えていくことが必要です。

また、水源地域においては、地域が備える恵まれた自然環境や水環境を保全するとともに、これらの資源や魅力を十分に引き出し活用することにより、水源地域自体が高齢化・過疎化に負けない活力のある特徴ある地域づくりを推進していくことが重要です。

土師ダム水源地域ビジョンの基本理念

土師ダム水源地域ビジョンでは、水源地域の将来象として

「江の川の水源から“はじまる”水と人の循環」

を目指し、水源地域と下流・受益地との絶え間ない水の循環と人の往来による、豊かな水源地域づくりを推進するものです。

4 ビジョンの基本方針と具体的施策

● ビジョンの基本方針

土師ダム水源地域の活性化に対して地域が現在抱える課題等を踏まえ、水源地域ビジョンの基本理念の実現に向けた水源地域ビジョンの基本方針について、以下の5つの基本方針を定めます

基本理念

江の川の水源から“はじまる”水と人の循環

基本方針

方針 1

豊かな自然環境と清らかな水環境の保全・活用

水源地域（安芸高田市・北広島町のうち旧大朝町域及び旧千代田町域）の約8割は豊かな森林（水源林）に覆われています。また、これらの森林のうち約7割を自然林が占めており、比較的恵まれた自然環境と美しい景観が残されています。

水源地域の豊かな森林は、流域住民が生活していく上で必要な水源を涵養する機能のほか、土砂流出の抑制や大気の保全、動植物の生息・生育空間、さらには川や海の幸に必要な豊富な栄養分を供給する「食物連鎖」の原点でもあるなど多様な公益的機能を有しており、流域圏全体の貴重な共有財産です。

水源地域の役割・機能を守り育ていくためには、このような水源地域の恵まれた自然環境・水環境が良好な状態で保全されていくことが前提となります。

ビジョンでは、水源地域に暮らす人々はもとより、水源地域を訪れる人々に対しても自然とのふれあいを通じて、水源地域の自然環境が共有の財産であるという認識を深めながら、適切な森林管理や河川管理、さらには八千代湖の水質向上対策と併せ、水源地域の自然環境を持続的に守り育ていくものとします。

方針 2

既存資源の利活用と新たな魅力の創出

水源地域には、恵まれた自然資源や、地場産業が活かされた様々な魅力を有する地域であり、広島圏域の観光拠点のひとつとして今日まで発展してきました。また、毛利一族繁栄の地であることをはじめとして、今なお語り継がれる歴史や貴重な伝統文化が数多く残されています。

一方、八千代湖においても、湖畔に咲き誇る桜並木や、土師ダム建設以来進めてきた周辺レクリエーション施設の整備により、多くの人々が訪れるレクリエーション拠点となっています。

水源地域の活性化にあたっては、それぞれの資源のさらなる魅力の向上や新たな資源の掘り起こしを図るとともに、個別の資源・魅力のネットワーク化・パッケージング化により、点から線、線から面へと発展させ、年間を通して水源地域全体の魅力をアップさせていくことが重要です。

また、地域の人々が、水源地域の歴史を再認識し、地域の貴重な歴史・文化として継承し、未来へ語り継いでいくことが必要となります。

方針 3

広域的な交流・連携

現在、水源地域内では伝統や歴史の継承、自然環境の保全、地域振興など、様々な目的を持った活動団体が、活発な活動を展開しています。また、地域の自然を活かした都市部との交流なども一部では動き始めています。

水源地域の意義や役割を流域圏全体として共有化し、地域内や中下流、さらには他地域や海外も視野に入れた多様な交流や連携を育み、交流人口の増加とともに連携・協働による取り組みの活発化を図ることにより、広域の人々が水源地域を様々な面で支えていくことが可能となります。

ビジョンでは、地域内の各団体が誇りを持って活動を行える環境づくりのほか、互いの活動を理解し交流・連携を図り、さらには流域内の各活動団体の活動を川や道を通じた広域的な交流・連携へと発展していくよう、自立的・持続的な様々な活動の活発化を図るとともに、これらの活動を積極的に支援していく方策を検討していきます。

また、2002年度から「総合的な学習の時間」が小中学校で設けられたことを契機に、自然の中で体験しながら学ぶ活動を一層活発化させていくことが求められていることから、広域的な交流の中で、水源地域の豊かな自然を生かした、様々な体験・学習の機会やボランティアの機会を創出し、水源地域の重要性や環境保全に対する意識啓発を促していくものとし

方針 4

人材の発掘・育成・支援

少子化や若年層の地域外への流出による高齢化により、交流・連携を担う人材など、今後の地域活性化に向けた担い手の育成が課題となっています。

水源地域の活性化のためには、地域の資源を活かし発信していく地場産業の振興や、水源地域内及び下流・都市域との交流・連携の受け皿や推進組織の育成など、交流・連携の活発化に向けて地域の活力を高めていくことが必要です。

そのため、ビジョンでは地場産業である農業や林業などを担う人材や、水源地域内及び下流・都市域との交流・連携を活発化していくための人材（人財）・組織の発掘・育成を図っていくものとし

方針 5

広報・啓発の推進

土師ダムを有する水源地域は、太田川流域への流域変更により広島圏域5市5町への水道用水・工業用水の安定した供給を行う他、江の川下流へ流出する洪水の調節など、広島県

生活・経済基盤の発展を支える大きな役割を担い、下流地域はその恩恵に与っています。流域圏の人々が水源地域の役割や機能、その恵みを享受していることに気づき、水源地域が流域圏全体の資産であることの認識を深めながら交流・連携をより一層推進していくためには、水源地域からの情報発信が不可欠です。

そのため、水源地域の役割や機能はもとより、魅力や資源、水源地域を守り育む取り組みなど、水源地域の様々な情報を、様々な広報媒体やイベント、キャンペーン等を利用して、流域圏を含む広域的な地域に対して広く情報発信することにより、流域に暮らす人々に、今一度、水利用のあり方を見直し、水のありがたさの再認識を促すとともに、子供達にも水の大切さを伝えていくものとし

また、水源地域の水管理に関する情報を、流域自治体、河川管理者などと共有し、協力・連携の下、洪水被害の防止・軽減をはじめとする安全・安心な水管理を推進していきます。

● 具体的施策

5つの基本方針に基づき、以下の施策・取り組みを実施していきます。

方針 1

豊かな自然環境と清らかな水環境の保全・活用

- ① 適正な森林管理の推進
 - 森林管理者と連携した計画的な間伐の推進
 - 不在所有者などの放棄森林所有者に管理を働きかける施策の実施
 - 間伐材の利用促進など、木材の新規需要の開拓
 - 広葉樹の植樹など、人工林の自然林化を進めるためのモデル林の整備推進
 - ボランティアによる森林整備の機会づくり
- ② 湖岸・河川等の環境整備の推進
 - 多自然型工法による多様な水辺環境の保全・再生事業の推進
 - 水に親しみ自然を学べる親水空間の整備
 - ダムからの河川環境保全のための流量の適切な供給
- ③ 江の川（可愛川）・八千代湖の水質の保全
 - 地域の特性に応じた生活排水処理施設の計画的な整備の推進
 - 流域が一体となった水質向上の取り組みの推進
- ④ 水源地域環境の保全
 - 水源地域としての環境保全
 - 環境保全に関わる活動組織の支援
- ⑤ 水源地域保全のための財源確保
 - 「水源林保全基金」や「水源地域ファンド」などの設置についての調査・検討



豊かな森林に覆われた水源地域

方針 2

既存資源の利活用と新たな魅力の創出

- ① 水源地域の魅力の発掘
 - 地域の自然や地場産業を活かした新たな観光資源の発掘
 - 地域の自然資源を活用したツーリズムの開発
- ② 八千代湖周辺の魅力の向上
 - 都市住民との交流による桜の木の維持・更新
 - 周辺施設の魅力向上とダム湖の活用
 - 既存施設の交流拠点施設としての活用
 - 遊休地を利用した新たな魅力の創出
 - 八千代湖を活用した環境学習プログラムの企画・支援
 - 一般参加が可能なダム見学会の開催
 - 湖畔利用マナーの改善の取り組み
- ③ 地域内観光資源のネットワーク化・パッケージ化
 - 観光資源のパッケージ化による水源地域のイメージづくり
- ④ 水源地域ブランドの開発
 - 地域の地場産品や豊かな自然を利用した特徴ある商品の企画・開発
 - 桜のシーズンの来訪者に対する水源地域ブランドの浸透
- ⑤ 伝統文化に関する学習会の開催
 - 伝統文化に関する活動や学習会の展開・支援



のどごえ公園（土師ダム）

方針
3

広域的な交流・連携

- ① 水源地域ボランティアの仕組みの創出
 - 水源地域ボランティアの仕組みづくりと組織化の推進
- ② N P Oの広域的な交流機会の活発化
 - 地域内活動団体の広域N P Oへの参加促進と協力・連携体制の確立
- ③ 体験・学習プログラムの創出
 - 新たな体験プログラムの発掘
 - 子供達に対する自然体験機会の創出
 - 流域の小中学生を対象とした「総合的な学習の時間」の成果発表会の開催
- ④ 交流の拠点づくり
 - 既存施設を活用した交流拠点づくり
- ⑤ 民間と行政の情報の共有化や各取り組みとの連携
 - 民間と行政の情報共有化と対話の促進
- ⑥ 国際的な交流の推進
 - 海外との多様な分野における相互交流の推進
- ⑦ 推進・支援組織の仕組みづくり
 - ビジョン推進のための組織づくりと支援体制の確立



ひろしま人と樹の会が運営する炭焼き小屋

方針
4

人材の発掘・育成・支援

- ① 地場産業の担い手の育成
 - 農林業技術の教育・支援制度等を活用した担い手の育成
 - 観光の担い手の発掘・育成
 - 新事業創出のための人材の育成
 - 高齢者の知恵や技術を生かす場の発掘
- ② 交流の担い手の育成
 - 交流活動のコーディネーターの育成
- ③ 観光ボランティアの育成
 - 地域内外の観光ボランティアの育成
 - ネイチャーガイドの育成
- ④ 達人の登録・派遣制度の確立
 - 達人データベースの作成・配布
 - 達人によるゲストティーチャー派遣制度の確立



水源地域で実施された自然観察会

方針
5

広報・啓発の推進

- ① 水利用に関する啓発・教育
 - 「総合的な学習の時間」を利用した啓発・教育の推進
 - 各種の交流やイベントを通じた啓発・教育の推進
 - 自治体の生涯教育を利用した啓発・教育の推進
- ② 水管理に関する情報の発信
 - インターネット等を利用した、リアルタイムな水源地域の状況の発信
 - 水源地域の水管理システムの周知促進
 - 下流自治体との連携による洪水被害の防止・軽減
- ③ 広報・情報発信の強化・充実
 - 行政や活動団体相互のHPとリンクした水源地域情報専用HPの開設
 - 各種イベントを利用した水源地域のPRの展開
 - コミュニティーFMや新聞、TVなどのマスメディアを活用した水源地域情報の発信
 - 各種情報誌への観光情報の提供
- ④ 水源地域の紹介や総合的な学習の資料の作成
 - 水源地域の歴史や自然環境に関する子供向けの絵本・紙芝居の作成



土師ダムから送られた水を取水する高瀬堰

5 ビジョンの推進体制

土師ダム水源地域ビジョンの着実な推進を図るためには、様々な関係者が一体となり、連携・協力しながら推し進めることが重要となります。

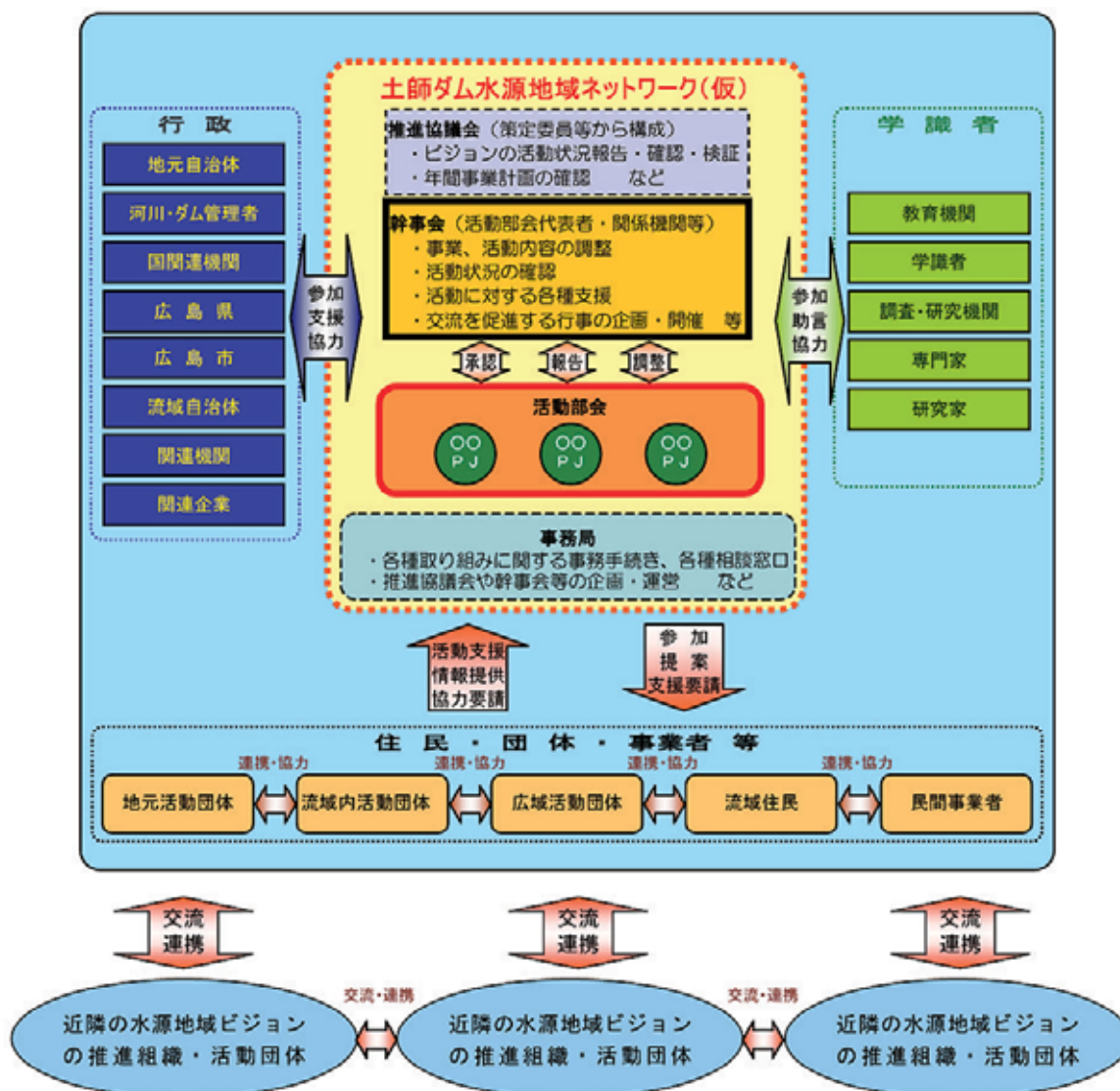
このため、本ビジョンの推進にあたっては、関係者間の役割分担、連携・協力を円滑に進めるために、「土師ダム水源地域ネットワーク（仮）」の組織づくりを検討していきます。

同組織は具体的なプロジェクト（現在行っている各活動の展開も含む）を担っていく運営部会（プロジェクトチーム）を中心に、住民（水源地域の活動団体や住民、流域や広域の活動団体）や行政（水源地域自治体・ダム管理者・流域自治体・関係機関）、さらにはアドバイザーとして学識者も含め、各種の具体的な取り組みや施策に積極的に参画してもらうことにより、協働でビジョンの基本理念・基本方針の達成に向けて活動していくものです。

また、同組織内には、各運営部会の代表者（幹事）が一同に会して活動内容の連絡・調整を行う幹事会の他、関係者が一同に集う推進協議会を設置し、ビジョンの着実な進捗を図るものとします。

事務局は、同組織の内の調整やサポート等を図り、各プロジェクトが円滑に推進できるような役割を担います。

さらに、同様の課題を有したり、水源地域の活性化に向けた取り組みを実践している、中国地方をはじめとする近隣の水源地域（水源地域ビジョン策定ダムを主とする）のビジョン推進団体や活動団体との有機的な連携・交流を図り、相互の取り組みを高めていくような体制も検討します。



ビジョンの推進体制のイメージ

6 当面の重点的な取り組み

各方針による具体的施策・取り組みの中から、早期の着手が可能な施策や取り組み、さらには早期の着手が必要な施策や取り組みについて、これまでの委員会やワークショップの検討から、下に示す5つの施策をリーディングプロジェクト（当面の重点的な施策）として位置づけました。

リーディングプロジェクトとして位置づけた5つの取り組みについては、各基本方針の目標を達成するための基本的な要素と成り得る取り組みであり、他各種施策（広域的な交流・連携、人財の発掘・育成など）への波及的効果も高い施策として捉えることができます。

特に「ビジョン推進・支援組織の仕組みづくり」については、流域住民や活動団体による各種ビジョンの施策の展開を支えていく上での最重要課題であり、民間と行政との情報の共有化や各取り組みとの連携を図りながら早急な取り組みが必要です。

重点施策 1 水源の森プロジェクト

ブナの原生林は西中国山地の自然を代表するものですが、江の川の水源地域はこの西中国山地の東端に位置し、島根県、北広島町、安芸高田市にまたがる阿佐山などブナの原生林が見られる地域があります。これらのブナの原生林を源流の象徴的な森として保全すると共に、台風によって倒木被害を受けた山林や伐採跡地においては積極的にブナやミズナラの苗木など地域に適した広葉樹を植林することで、人工林の自然林化を推進します。また、人工林の複層林化や混交林化を推進し、森林の生産力の維持、水源地域としての保水力の強化とともに森林が本来有する多様性の回復を図ります。

重点施策 2 桜守（さくらもり）プロジェクト

春には6000本の桜が咲き乱れ、県内有数の桜の名所となっている八千代湖ですが、多くの桜は老齢化が進み、テングス病などにかかった桜や生育不良の桜も散見され、景観を損なっている場所も一部に見られる状況にあります。

本施策は、土師の桜を後世に継承し、さらには桜の名所100選（日本さくらの会）に選定されることを目指し、行政のみならず桜を愛し楽しむ住民を「桜守」として登録し、住民との交流・協働の中で、桜の維持・保育を行っていくとともに、桜に関する様々な情報を発信していくものです。

重点施策 3 資源発掘・パッケージ化プロジェクト

水源地域や江の川をテーマとして観光やエコツアーのプログラムを発掘し、旅行会社などと共同で商品開発します。また、受け入れ態勢を整備し、観光教育の場として広島圏域に広くPRを行っていきます。

重点施策 4 ビジョン推進・支援組織の仕組みづくり

自立・持続的な交流・連携活動の推進・支援組織として「土師ダム水源地域ネットワーク（仮称）」の組織化を行い、各種の施策の推進や各団体の相談・支援の窓口の一元化を図ります。また、各関連団体・関連機関との連携を図り、「人材」、「物品」、「資金」、「情報」等を有機的にコーディネートし、必要に応じて、住民の活動に対して柔軟な支援を行える体制づくりを図ります。

重点施策 5 情報発信プロジェクト

流域圏の人々が水源地域の役割や機能、その恵みを享受していることに気づき、水源地域が流域圏全体の資産であることの認識を深めながら交流・連携をより一層推進していくためには、水源地域からの情報発信が不可欠です。

水源地域の役割や機能はもとより、魅力や資源、水源地域を守り育む取り組みなど、水源地域の様々な情報を、様々な広報媒体やイベント、キャンペーン等を利用して、流域圏を含む広域的な地域に対して広く情報発信を行っていくものとします。



土師ダム 水源地域ビジョン ー概要版ー

平成18年(2006) 2 月

監 修 土師ダム水源地域ビジョン策定委員会
委員長 中越 信和

制作・発行 国土交通省中国地方整備局
(事務局) 土師ダム管理所



〒731-0301 広島県安芸高田市八千代町土師 3 6 9 - 2 4

TEL(0826)52-2455 FAX(0826)52-2457

E-mail haji@cgr.mlit.go.jp

URL <http://www.cgr.mlit.go.jp/haji/>